

109 オオアカゲラ

(キツツキ目)

兵庫県ランク:B

Dendrocopos leucotos

繁殖個体群:B 越冬個体群:B 通過個体群:調

環境省ランク:指定なし

種の概要

亜種エゾオオアカゲラが北海道に、亜種オオアカゲラが本州北・中部に、亜種ナミエオオアカゲラが本州中・南西部、四国、九州に、亜種オーストンオオアカゲラが奄美大島にそれぞれ留鳥として分布する。兵庫県では局地的ではあるが周年見られる。落葉広葉樹林、針広混交林、常緑広葉樹林の枯れた大木のある深い森林に生息し、樹洞に営巣する。枯れ木をつついて昆虫類やクモ類、特にカミキリやその幼虫を好んで捕食する。

国内分布

北海道、利尻島、南千島、本州北・中部、佐渡、隠岐、四国、九州、奄美大島



写真提供:三谷康則

県内分布 ()表記の市町では2002年以前に生息確認

(神戸市)、(姫路市)、豊岡市、養父市、(丹波市)、(朝来市)、宍粟市、(多可町)、神河町、(佐用町)、香美町、新温泉町 ※県内繁殖有



主要な選定理由

影響の人為性					生態の脆弱性 (特殊性)			学術上の希少性	
個体数激減	分布域激減	餌の可用性の低下	特殊競争圧	特殊捕食圧	特殊繁殖環境	特殊採餌環境	ねぐら休息環境・	局地的繁殖	希少

県内における生息状況およびその他特記事項

ランク変更なし。

もともと個体数は多くないが、かつては西播北部地域や但馬地域では多くみることができた。六甲山でも1962年12月に巣穴を掘る1羽が観察されている。近年は営巣場所に必要な巨木が減っているため、個体数はかなり減っている。

保護上の留意点

本種は二次林や造林地は利用せず、ブナ林などの巨木が多く残る自然林に生息するため、現在生息が確認されている森林環境をそのまま保全することが唯一の保護対策である。